

# RPAの現状と 医療分野での活用事例

株式会社MICHIRU | 相馬章人

## はじめに

現代は、技術の進化により将来の予測が不可能な時代：VUCA(ブーカ)時代と呼ばれるようになりました。このような時代を勝ち抜くには、これまでの常識にとらわれず、新しいテクノロジーを理解し、自らの業務や組織に適用できるかを常に考える必要があります。このようにデジタル技術を前提として様々なことに対し最適化を進め変革していくことがDX(デジタル・トランスフォーメーション)の本質だと考えます。

## RPAとは

RPAは「Robotic Process Automation(ロボティック・プロセス・オートメーション)」の略で、ロボットによるプロセスの自動化を指します。ここで言う「ロボット」とは「コンピュータ」のことであり、一言で言えば、コンピュータ内のルーチンワークを自動化するソフトウェアのことです。

RPAはコンピュータ上で動作する様々なアプリケーションを操作することができ、人間が行っている操作(例えば、Excelファイルに保存している顧客情報

を順番に顧客管理システムに入力する、というような操作)をそのまま代行できます。新たなシステムを導入する場合と比べて、業務を大きく変更せずに自動化することができるため、取り組みやすくDXのはじめの一歩としても注目されています。

## RPAの現状

日本においてRPAは、2017年頃から大企業を中心に導入が進み、2019年頃から中小企業での導入も増加しました。2022年現在では普及期に入ったと考えられています。

MM総研によると、2020年度のRPA導入率は年商50億円以上の企業で39%、年商50億円未満の企業で11%となっていますが、2022年度にはそれぞれ50%、28%になると予想されています(図1)。

弊社製品であるMICHIRU RPAの導入数も増加が続いており、増加率も上昇していることから、近年中には更に導入が進んでいくと考えます(図2)。

## RPA活用の目的

RPA活用の目的として、人間の可処分時間を増やすことが挙げられます。ルー

チンワークをRPAが担うことで、人間はルーチンワークに割いていた時間を他のことに使えるようになります。この空いた時間を人間にしかできない、より創造的なことに当てると、生み出す価値を高められます。人間がやっていたルーチンワークをRPAで自動化すると、人員整理につながるのではないかと考えられますが、ルーチンワークに割いていた時間を学習やスキルアップに使うことができる、と考えれば多くの人に自動化の意義を感じていただけるのではないのでしょうか。

## RPA活用の効果

RPAを活用することで次のような効果も期待できます。

### ①処理速度の向上

人間が操作する場合、画面上に表示される内容を認識しそれに対してマウスやキーボードを動かして操作を行うため、どんなにPCの操作に熟練した人でも操作速度に限界があります。また長時間作業すれば疲れてしまい、操作速度が遅くなることも考えられます。RPAを活用する場合、操作が高速であることに加えて疲れるということもないため、人間が操作する場合に比べて処理速度が向上します。

②ヒューマンエラーの解消

単純なルーチンワークであっても人間が数十回、数百回操作を繰り返すと操作ミスが発生します。これらの原因は人間の誤認や不注意によるもので、本人としては適正に取り組んだつもりが意図しない結果につながってしまうため完全に防ぐことは非常に困難です。これまでに人間が担っていた操作をRPAが行うことにより、このようなヒューマンエラーの発生を防ぐことができます。

③業務手順の整理、見える化

RPAでシナリオ(RPAソフトウェア上で操作対象のアプリケーションをどのよ

うに操作するかという指示)を作成する際には、どのアプリケーションの・どの画面に・どのような操作を行うかを指定する必要があります。人間が当然のように行っている業務を一つ一つ確認していくことで手順が明確になり見直しや整理のきっかけになります。

医療分野でのRPA活用

医療分野においては「経済財政運営と改革の基本方針2022」(骨太方針2022)が2022年6月に閣議決定され、「医療DX推進本部(仮称)」を設置し、医療のDX化

を強力に推進する方針が打ち出されました。医療分野では医療保険制度の中で公平性やフリーアクセスが求められることもあり、競争性・優位性よりも、効果的かつ効率的に医療提供を行うことができるかが重視されています。また、近年進められている医師の働き方改革においても、タスクシフティングを行い医療専門職が専門性をより発揮できることを目指されており、RPAの活用もその一助となると考えられます。

すでにRPAを導入された医療機関・組織では以下のようなシーンで活用されています。

- ・有給休暇申請のシステム登録
  - ・出張報告書から旅費部分を抽出しシステム登録
  - ・SOAPフォーマットへの転載
  - ・職員の勤務実績/手当の入力
  - ・予約情報の入力、リマインド
  - ・施設別実績の集計
  - ・医事システムリプレイス時におけるデータ移行
- 一般的なバックオフィス業務だけでなく、医療業界ならではの活用方法があり様々な場面でRPAが利用できるとわかります。

熊本大学病院での事例

熊本大学病院では、2019年にRPAを導入されており、主に地域連携ネットワーク「くまもとメディカルネットワーク」の操作に活用されています。

くまもとメディカルネットワークは、熊本県と熊本県医師会、熊本大学病院で推進している地域医療等情報ネットワーク事業であり、病院や診療所、歯科、薬局の医療機関や訪問看護ステーション、介護施設等を結ぶことで、参加者(患者)の診療・調剤・介護に必要な情報を多職種で共有し、医療・介護サービスに活かすシステムです(図3)。

病歴や処方歴・検査情報(画像を含む)等の診療情報、在宅療養・介護に関する情報をネットワーク上で共有・活用することで、治療の標準化、災害時・救急搬送時の迅速かつ適切な治療・ケア、インフォームドコンセント(説明を受けた上

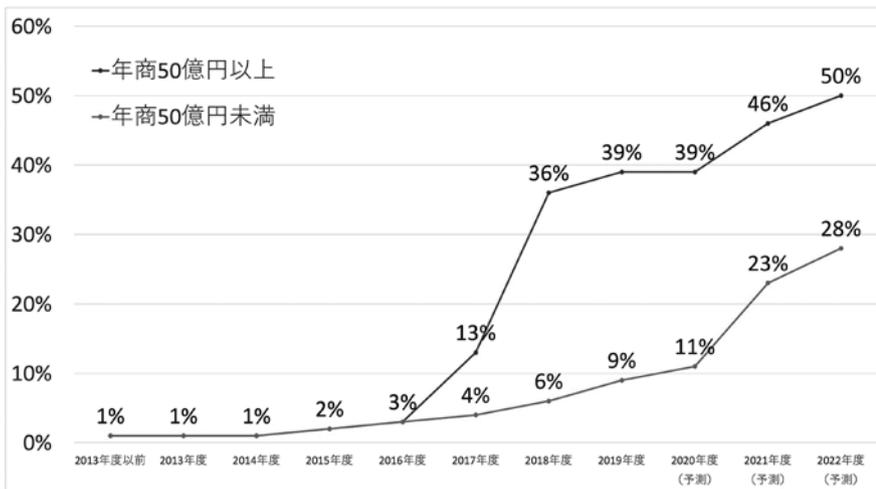


図1 日本の企業におけるRPAの導入率(出典 MM総研「RPA国内利用動向調査2021」)

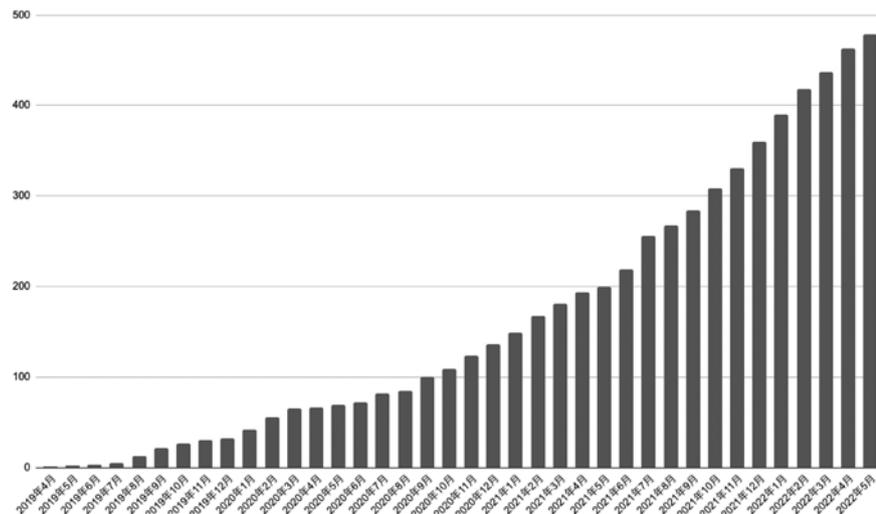


図2 MICHIRURPA導入数